



**琵琶湖・沖島における通船インターン事業
夏季報告**

滋賀県近江八幡市 沖島自治会

平成 27 年 8 月

平成 27 年おきしま通船夏季インターン事業を、8 月 13 日（木）から 8 月 26 日（水）までの 2 週間を設定し、前半・後半に分けて各 7 日で実施しました。

業務時間帯は、おきしま通船 7 時 5 分沖島港発から 21 時堀切港発の往復 11 便とし、業務内容は、操縦補助・乗船下船補助・清掃補助・整備補助及びその他通船の運航に必要な業務です。

インターン事業の中で、地域との意見交換や交流を目的として沖島自治会主催の夏祭り開催準備や、沖島離島振興推進協議会実施事業である「きかせて沖島のこと！若人の集い」への参加、さらに若者と滋賀県を繋ぐ事により将来の船長候補を沖島へ招く取組みの一環として、琵琶湖汽船株式会社の会社見学及び、琵琶湖汽船様と学生、自治会による意見交換会も併せて開催しました。

今回のインターン事業には、弓削商船高等専門学校から 1 班 2 名、2 班 3 名、計 5 名の学生に参加して頂きました。



夏祭り期間中には沖島に帰省する家族連れや、観光やボランティアに訪れる方など多くの方が堀切港に集中し、一部の時間帯で臨時便を出す事となりましたが、学生達の活躍によりスムーズな増便運航が可能となりました。

船長さんからは「来てくれて、とても楽になる。もっと期間を延ばしてほしい」とお言葉を頂いています。

インターン事業の効果は事業の目的以外にも地域の活性に繋がる効果がありました。学生達は乗船時に限らず、島内でも若者らしいハツラツさで島の皆さんと誠実に接してくれて、インターン期間を通して島内に日夜若者がいるという活気が戻りました。



地域との意見交換や交流を目的として実施しました 1 班の夏祭りの開催準備では、屋台の準備などで地域の方と一緒に夜遅くまで準備を進めました。

琵琶湖・沖島における通船インターン事業 夏季報告

インターンの学生達には、共同作業のなかで沖島の文化や伝統に触れて頂く事により、沖島への愛着を持って頂く事が出来たと思います。

夏祭り以降の学生達は、夏祭りの準備で出会った方と自然に挨拶を交わし、地域に一層溶け込んだ活動ができている様子でした。

2班が参加した若人の集いには、沖島から自治会役員・通船部会委員・過年度インターン経験者・本年度インターン学生及びオブザーバーの計23名が参加し、設定時間一杯まで自由に活発な意見交換が行われました。(詳細は別紙。)

会議では、インターン経験者及び学生達から沖島の良さについての発表と情報発信の有効性及び通船と自転車のコラボなどの提案がありました。

地元自治会及び通船部会からは、おきしま通船の船長2名があと3年で定年退職を迎えることから船長の担い手に不安があることや、現在チケット販売が乗船後の販売であり初めての方には分かりづらく、堀切港に券売機を設置する事などについて意見を求めました。

協議の中でいろいろな提案や考え方が示されるなど、おきしま通船の振興に向けた有意義な時間となりました。



若人の集いでは、①インターン経験者との連携、②船長確保策の一つとしてパートタイム船長の導入検討、③通船と自転車のコラボ、④船舶免許の合宿教習の開催などの提案がなされ、今後更なる検討を進めることとしました。

若者と滋賀県を繋ぎ将来の船長候補を沖島へ招く取組みの一環として実施しました、琵琶湖汽船株式会社様への会社見学は、8月18日(火)・21日(金)の両日に大津にある本社へ伺いました。



1班は学生2名と地元4名、2班は学生3名と地元8名、琵琶湖汽船様からは両日とも取締役様に対応して頂き、滋賀県における琵琶湖汽船様の活動や企業採用の考え方、また、沖島と琵琶湖汽船の関わりから今後の展開等の説明を受け、学生からは職員数に占める船長の構成や将来滋賀県への就職可能性及び免許取得方法などについて質問や意見が出されました。



その後、開催しました意見交換会ではIターン、Jターンについて活発に語り合うことができました。

1班・2班のインターン最終日、8月19日(水)・26日(水)には、沖島自治会とインターンの学生達とで、インターンを終えて感じたことを中心に意見交換を行いました。

琵琶湖・沖島における通船インターン事業 夏季報告

出された意見としては、沖島に来てからオリエンテーションで知る情報もあり事前にもっと情報発信があれば良い、春のインターンシップがあればまた参加したい、などの思いを聞くことができました。

インターンに参加した学生達が乗船する 12 時の通船には多くの通船関係者が集まり全員で見送って頂きました。



以上